

様式 1 公表されるべき事項

大学共同利用機関法人人間文化研究機構の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成24年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

勤労手当については、人間文化研究機構役員給与規程により、その者の業務実績に応じ、経営協議会に諮ってこれを増額し、または減額することができる。
平成24年度においては、業務実績に反映するほど特に顕著な業績や失態がなかったため、業務実績に基づく役員報酬の増減は行わなかった。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長 { (平成24年4月1日から実施)
国に準拠して、本給月額を約0.5%引き下げ。 }

理事 { 法人の長に同じ。 }

理事(非常勤) { 法人の長に同じ。 }

監事 { 適用者無し。 }

監事(非常勤) { 法人の長に同じ。 }

2 役員報酬等の支給状況

| 役名 | 平成24年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | | 前職 |
|--------------|----------------|--------------|-------------|---|----------|--|----|
| | 報酬(給与) | 賞与 | その他(内容) | 就任 | 退任 | | |
| 法人の長 | 千円 18,287 | 千円 11,526 | 千円 4,614 | 千円 2,074 (地域手当) 71 (通勤手当) | | | |
| A理事 | 千円 14,907 | 千円 9,111 | 千円 3,648 | 千円 1,640 (地域手当) 87 (通勤手当) 420 (単身赴任手当) | | | |
| B理事 | 千円 13,704 | 千円 8,478 | 千円 3,394 | 千円 1,526 (地域手当) 305 (通勤手当) | | | |
| C理事 | 千円 12,548 | 千円 7,866 | 千円 3,149 | 千円 1,415 (地域手当) 117 (通勤手当) | | | ◇ |
| D理事 (非常勤) | 千円 3,485 | 千円 3,485 | 千円 | 千円 | | | ※ |
| A監事 (非常勤) | 千円 1,354 | 千円 1,354 | 千円 | 千円 | | | |
| B監事 (非常勤) | 千円 1,354 | 千円 1,354 | 千円 | 千円 | | | |

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

注3:総額、各内訳について千円未満切り捨てのため、総額と各内訳の合計額は必ずしも一致しない。

3 役員の退職手当の支給状況(平成24年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) | 法人での在職期間 | | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要 | 前職 |
|------|---------|----------|---|-------|-------|-------|----|
| | 千円 | 年 | 月 | | | | |
| 法人の長 | | | | | | 該当者なし | |
| 理事 | 千円 | 年 | 月 | | | 該当者なし | |
| 監事 | 千円 | 年 | 月 | | | 該当者なし | |

注1:「摘要」欄には、具体的な業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入する。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

業務運営の効率化を図り、業務内容・業務量に応じた適正な人員配置を行い、適正な人件費の管理に努める。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

職員の給与水準については、国立大学法人法(平成15年7月16日法律第112号)により準用される独立行政法人通則法(平成11年7月16日法律第103号)及び職員の給与改定に関する政府方針(閣議決定)に基づき、社会一般の情勢及び国家公務員の給与水準を十分に考慮して適正な給与水準となるよう決定している。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

勤務成績により年1回の昇給時に昇給の号給数に反映させるほか、勤勉手当の増減を行う。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|-------------------|--|
| 本給月額 (昇格) | 国家公務員給与法適用職員に準じ、勤務成績が良好で、かつ昇格基準に達している場合、その者の資格に応じて、1級上位の級に昇格させることができる。 |
| 本給月額 (昇給) | 国家公務員給与法適用職員に準じて勤務成績を判定し、その昇給区分に応じた号給数を昇給させることができる。 |
| 賞与: 勤勉手当 (査定分) | 国家公務員給与法適用職員に準じ、基準日(6月1日、12月1日)以前6箇月以内の期間における勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給する。 |

ウ 平成24年度における給与制度の主な改正点

(平成24年4月1日から実施)

① 月例給

国に準拠して、若年・中堅職員層を除き、本給月額を平均0.23%(改定率幅△0.1%～△0.5%)引き下げ。経過措置中の額については、減額調整率を100分の99.1に引き下げ、その支給期間を平成26年3月までとした。

② 昇給号給数

国に準拠して、平成24年4月1日現在30歳未満の職員について、同日に受ける号給の最大2号給上位に、30歳以上36歳未満の職員については、最大1号給上位に調整。

(平成24年5月1日から実施)

特例法に基づく国家公務員の給与の見直しに関連して、以下の措置を講ずることとした。

(職員について)

・実施期間:平成24年5月～平成26年3月

・本給表関係の措置の内容:指定職・研究教育職及び研究職5級・

一般職(一)7級以上・一般職(二)4級以上(▲9.77%)

研究教育職及び研究職3～4級・

一般職(一)3～6級・一般職(二)3級以下(▲7.77%)

一般職(一)2級以下・研究教育職2級・研究職2級以下(▲4.77%)

・諸手当関係の措置の内容:機関長手当及び管理職手当(▲10%)

地域手当(本給表等関係諸手当の減額割合に準じて減額)

期末手当及び勤勉手当(▲9.77%)

勤務1時間あたりの給与額(本給表等関係諸手当の減額割合に準じて減額)

(役員について)

・実施期間:平成24年5月～平成26年3月

・本給表関係の措置の内容:▲9.77%(非常勤役員手当についても同じ)

・諸手当関係の措置の内容:地域手当(本給表等関係諸手当の減額割合に準じて減額)

期末手当及び勤勉手当(▲9.77%)

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成24年度の年間給与額(平均) | | | |
|----------------|----------|-----------|------------------|--------------|-----------|-------------|
| | | | 総額 | うち所定内 | | うち賞与 |
| | | | | うち通勤手当 | | |
| 常勤職員 | 人 324 | 歳 48.0 | 千円 7,522 | 千円 5,671 | 千円 188 | 千円 1,851 |
| 事務・技術 | 人 144 | 歳 42.2 | 千円 5,788 | 千円 4,432 | 千円 182 | 千円 1,356 |
| 教育職種 (大学教員) | 人 174 | 歳 52.2 | 千円 8,752 | 千円 6,542 | 千円 193 | 千円 2,210 |
| 指定職種 | 人 5 | 歳 66.9 | 千円 15,010 | 千円 11,310 | 千円 128 | 千円 3,700 |
| 研究職種 | 人 1 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |

| | | | | | | |
|---------------------|---------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 非常勤職員 | 人 47 | 歳 39.9 | 千円 3,864 | 千円 3,548 | 千円 181 | 千円 316 |
| 事務・技術 | 人 17 | 歳 39.6 | 千円 3,454 | 千円 2,637 | 千円 194 | 千円 817 |
| 教育職種 (大学教員) | 人 1 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 教育職種 (プロジェクト研究員) | 人 29 | 歳 40.4 | 千円 4,091 | 千円 4,091 | 千円 170 | 千円 0 |

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2:常勤職員、任期付職員及び非常勤職員の医療職種については、該当者がいないため省略した。

注3:在外職員及び再任用職員の区分については、該当者がいないため省略した。

注4:「指定職種」とは、特に指定された高度な業務を行う職種を示す。

注5:「教育職種(プロジェクト研究員)」とは、人間文化研究機構の各機関における特定のプロジェクトに従事する職員を示す。

注6:常勤職員の研究職種及び非常勤職員の教育職種(大学教員)については、該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

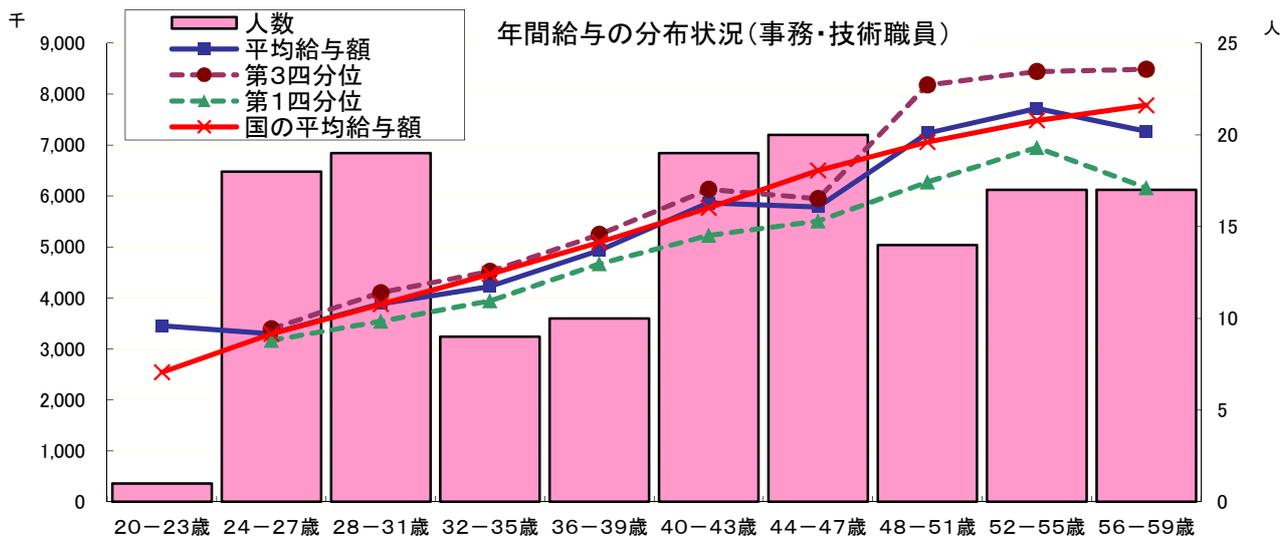
〔年俸制適用者〕

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成24年度の年間給与額(平均) | | | |
|-------------------|---------|-----------|------------------|-------------|----------|---------|
| | | | 総額 | うち所定内 | | うち賞与 |
| | | | | うち通勤手当 | | |
| 任期付職員 | 人 23 | 歳 40.0 | 千円 6,386 | 千円 6,386 | 千円 11 | 千円 0 |
| 地域研究推進センター 研究員 | 人 18 | 歳 38.7 | 千円 5,820 | 千円 5,820 | 千円 15 | 千円 0 |
| 特任研究員 | 人 5 | 歳 44.7 | 千円 8,424 | 千円 8,424 | 千円 0 | 千円 0 |

注1:「地域研究推進センター研究員」とは、関係大学・機関と研究拠点を共同設置し、拠点間のネットワークを構築して研究を推進する地域研究推進事業に従事する職員を示す。

注2:常勤職員、在外職員、任期付職員の事務・技術、教育職種及び医療職種、再任用職員及び非常勤職員については、該当者がいないため省略した。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／教育職員(大学教員))[在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]



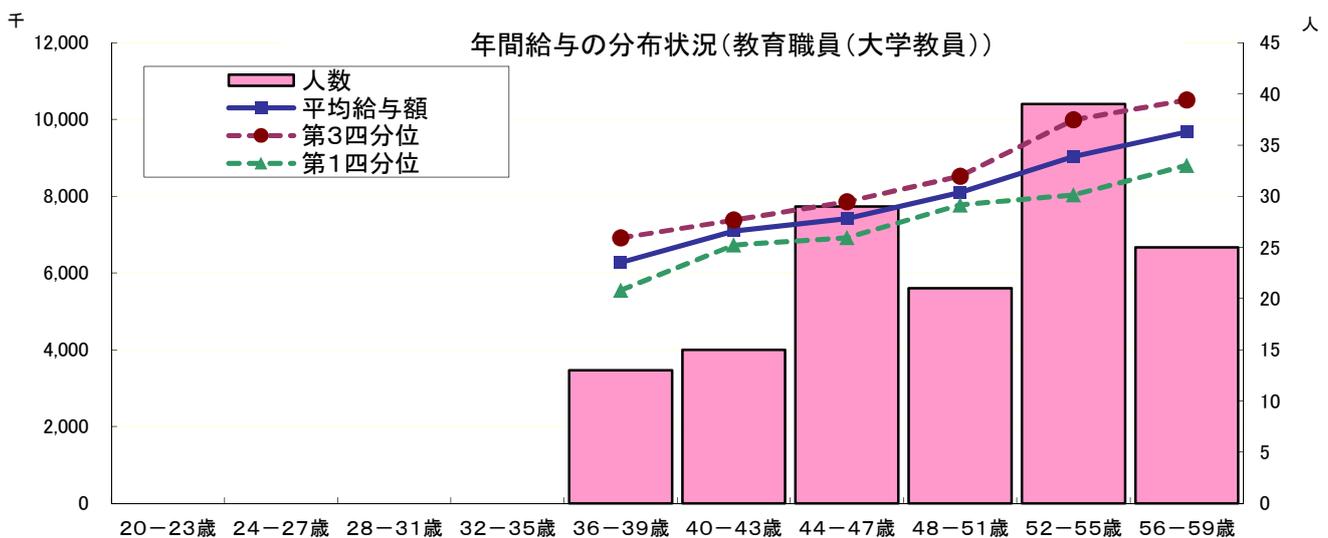
注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 第1四分位 | 第3四分位 | | 第1四分位 | 第3四分位 |
| 部長 | 4 | 55.5 | — | — | 9,615 | — | — |
| 課長 | 21 | 51.9 | 7,964 | 8,226 | 8,226 | 8,530 | 8,530 |
| 課長補佐 | 17 | 54.7 | 6,457 | 6,637 | 6,637 | 6,951 | 6,951 |
| 係長 | 47 | 45.1 | 5,346 | 5,690 | 5,690 | 6,045 | 6,045 |
| 主任 | 14 | 38.8 | 4,255 | 4,735 | 4,735 | 5,440 | 5,440 |
| 係員 | 41 | 28.5 | 3,342 | 3,643 | 3,643 | 3,968 | 3,968 |

注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

注2:部長の該当者は4人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。



(教育職員(大学教員))

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|--------|--------|
| | | | 第1四分位 | 第3四分位 | | 第1四分位 | 第3四分位 |
| 教授 | 89 | 57.2 | 8,826 | 9,708 | 9,708 | 10,507 | 10,507 |
| 准教授 | 72 | 47.5 | 7,174 | 7,584 | 7,584 | 8,033 | 8,033 |
| 助教 | 13 | 43.8 | 5,567 | 6,101 | 6,101 | 6,556 | 6,556 |

③ 職級別在職状況等(平成25年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|------------------------|----------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 標準的な職位 | | 一般職員 | 主任 一般職員 | 係長 主任 | 課長補佐 係長 | 課長 課長補佐 |
| 人員 (割合) | 144 人 | 19 人 (13.2%) | 29 人 (20.1%) | 45 人 (31.3%) | 20 人 (13.9%) | 10 人 (6.9%) |
| 年齢(最高 ～最低) | | 30 歳 ～ 23 | 45 歳 ～ 26 | 56 歳 ～ 36 | 59 歳 ～ 46 | 58 歳 ～ 40 |
| 所定内給 与年額(最高 ～最低) | | 2,944 千円 ～ 2,259 | 3,918 千円 ～ 2,513 | 4,761 千円 ～ 3,118 | 5,270 千円 ～ 4,436 | 6,058 千円 ～ 4,553 |
| 年間給与 額(最高～ 最低) | | 3,768 千円 ～ 2,955 | 5,051 千円 ～ 3,287 | 6,241 千円 ～ 4,157 | 7,039 千円 ～ 5,993 | 7,997 千円 ～ 6,152 |

| 区分 | 6級 | 7級 | 8級 | 9級 | 10級 |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 標準的な職位 | 課長 | 管理部長 | 事務局長 管理部長 | 事務局長 | |
| 人員 (割合) | 17 人 (11.8%) | 4 人 (2.8%) | 該当者なし () | 該当者なし () | 該当者なし () |
| 年齢(最高 ～最低) | 59 歳 ～ 43 | 59 歳 ～ 51 | | | |
| 所定内給 与年額(最高 ～最低) | 7,155 千円 ～ 5,660 | 7,452 千円 ～ 6,707 | | | |
| 年間給与 額(最高～ 最低) | 9,339 千円 ～ 7,446 | 9,926 千円 ～ 9,070 | | | |

(教育職員(大学教員))

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 |
|------------------------|----------|--------------|---------------------------|--------------|---------------------------|----------------------------|--------------|
| 標準的な職位 | | 研究員 | 助教 助手 | 講師 | 准教授 | 教授 機関の長 | |
| 人員 (割合) | 174 人 | 該当者なし () | 13 人 (7.5%) | 該当者なし () | 72 人 (41.4%) | 89 人 (51.1%) | 該当者なし () |
| 年齢(最高 ～最低) | | | 52 歳 ～ 36 | | 63 歳 ～ 36 | 64 歳 ～ 46 | |
| 所定内給 与年額(最高 ～最低) | | | 5,651 千円 ～ 4,008 | | 6,408 千円 ～ 3,884 | 9,442 千円 ～ 5,471 | |
| 年間給与 額(最高～ 最低) | | | 7,482 千円 ～ 5,289 | | 8,602 千円 ～ 5,146 | 12,469 千円 ～ 7,498 | |

④ 賞与(平成24年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|-----------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % 62.7 | % 65.2 | % 64.0 |
| | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | % 37.3 | % 34.8 | % 36.0 |
| | 最高～最低 | % 46.1～33.6 | % 45.8～31.1 | % 45.7～32.3 |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.2 | % 66.7 | % 65.5 |
| | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | % 35.8 | % 33.3 | % 34.5 |
| | 最高～最低 | % 41.4～33.1 | % 39.7～30.6 | % 37.8～31.8 |

(教育職員(大学教員))

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|-----------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % 62.0 | % 65.4 | % 63.7 |
| | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | % 38.0 | % 34.6 | % 36.3 |
| | 最高～最低 | % 48.9～34.1 | % 42.7～31.6 | % 45.4～32.7 |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.1 | % 66.7 | % 65.4 |
| | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | % 35.9 | % 33.3 | % 34.6 |
| | 最高～最低 | % 48.9～33.8 | % 45.7～31.4 | % 45.5～32.6 |

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))
対他の国立大学法人等

| |
|-------|
| 97.9 |
| 107.7 |

(教育職員(大学教員))

対他の国立大学法人等

| |
|------|
| 97.7 |
|------|

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目 | 内容 | |
|-------------------------|--|--|
| 指数の状況 | 対国家公務員 97.9 | |
| | 参考 | 地域勘案 98.3 学歴勘案 96.4 地域・学歴勘案 97.4 |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | 【主務大臣の検証結果】 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。 | |
| 給与水準の適切性の検証 | 【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 95.5% (国からの財政支出額 13,406,935,732円、支出予算の総額 14,032,776,732円：平成24年度予算) 【検証結果】 社会一般の情勢及び国家公務員の給与水準を充分考慮して適正な給与水準に決定されている。 | |
| | 【累積欠損額について】 累積欠損額0円(平成23年度決算) 【検証結果】 - | |
| 講ずる措置 | 引き続き、給与水準の適切性の維持に努める。 | |

○教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 97.7

注:上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年収比率を基礎に、平成24年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年収比率を比較して算出した指数である。

〔なお、平成19年度までは教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標である。〕

III 総人件費について

| 区分 | 当年度 (平成24年度) | 前年度 (平成23年度) | 比較増△減 | | 中期目標期間開始時(平成22年度)からの増△減 |
|---------------------|-----------------|-----------------|-----------|--------|-------------------------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | (%) | 千円 (%) |
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 3,229,211 | 3,564,293 | △ 335,082 | △9.4% | 同左 () |
| 退職手当支給額 (B) | 416,092 | 630,249 | △ 214,157 | △34.0% | 同左 () |
| 非常勤役職員等給与 (C) | 1,637,973 | 1,671,832 | △ 33,859 | △2.0% | 同左 () |
| 福利厚生費 (D) | 579,387 | 602,832 | △ 23,445 | △3.9% | 同左 () |
| 最広義人件費 (A+B+C+D) | 5,862,663 | 6,469,206 | △ 606,543 | △9.4% | 同左 () |

総人件費について参考となる事項

- ①「給与、報酬等支給総額」、「最広義人件費」について、
「給与、報酬等支給総額」及び「最広義人件費」の対前年度比はそれぞれ335,082千円減(△9.4%)及び606,543千円減(△9.4%)であり、その主な要因は、本給月額及び経過措置額に係る減額調整率の引き下げと、特例法に基づく国家公務員の給与見直しに関連して、法人が講じた給与減額支給措置による削減(下記※のとおり)に加え、研究教育職員(教育職種(大学教員))のうち、7.77%及び9.77%減額対象者が多く在職していたことが主な要因である。また、「再広義人件費」については、後述②の措置による削減も一要因である。

※法人が講じた給与減額支給措置による削減額

| | |
|--------------|-----------|
| 〔役員〕 | 5,975千円 |
| 〔指定職〕 | 9,103千円 |
| 〔事務・技術〕 | 104,105千円 |
| 〔教育職種(大学教員)〕 | 162,199千円 |
| 合計 | 281,382千円 |

- ②「退職手当支給額」について
「退職手当支給額」の対前年度比は214,157千円減(△34.0%)であり、その主な要因は、定年・任期満了等による退職者が減少したためである。また、「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき法人が講じた措置による削減(19,525千円)も一要因である。

- ③「非常勤役員等給与」欄に含まれる役員について
非常勤役員については、特例法に基づく国家公務員の給与見直しに関して、法人が講じた給与減額支給措置により、609千円を削減した。

IV 法人が必要と認める事項

「国家公務員の退職手当の支給水準引き下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき平成25年1月から、以下の措置を講ずることとした。

役員に関する講じた措置の概要: 退職手当額について、従前の計算式で得た額に調整率「100分の87」を乗じて得た額とすることにより、退職手当支給水準を引き下げる改正。なお、調整率の経過措置として、平成25年1月1日から同年9月30日までの間においては「100分の98」と、同年10月1日から平成26年6月30日までの間においては、「100分の92」とする。

職員に関する講じた措置の概要: 退職手当額計算における調整率を「100分の87」とし、退職理由や勤続年数にかかわらず適用することにより、退職手当支給水準を引き下げずる改正。なお、調整率の経過措置は、役員に同じ。